

主体的に学習に取り組み、学び合い、高め合う児童の育成

～わかる・できる・楽しい授業の創造～



○学校名	久喜市立砂原小学校
○所在地	久喜市砂原1丁目4番1号
○電話番号	0480-58-1614
○E-mail	sunahara-e@kuki-city.ed.jp
○ホームページ	http://www.kuki-city.ed.jp/sunahara-e

1 研究主題

(1) 研究主題

主体的に学習に取り組み、学び合い、高め合う児童の育成
～わかる・できる・楽しい授業の創造～

(2) 研究主題設定の理由

平成28・29・30年度埼玉県教育委員会から「考え、話し合い、学び合う学習」普及のための実践協力校の委嘱を受けている。

学力向上の面では、全国及び埼玉県の学力・学習状況調査の結果をみると、平均正答率が、全国及び埼玉県の平均を下回っている。特に、自分の考えを表現する問題では、無解答率が高い。

そこで、これらの課題を解決するために、研究主題を「主体的に学習に取り組み、学び合い、高め合う児童の育成 ～わかる・できる・楽しい授業の創造～」と設定した。具体的には、①児童一人ひとりの「学び」を大切にすること、②対話的な学びを形成していくことに主眼をおいた授業改革(創意を生かした授業実践)に取り組んでいる。

(3) 目指す児童像

自ら解決方法を見通し、他者と関わり合い、学び合いながら課題解決できる児童

(4) 研究の仮説と主な手だて

ア 仮説1

授業の導入や終末を工夫すれば、学習の見通しをもち、学習を振り返ることができ、主体的に学習に取り組む児童が育つであろう。

<手だて>

- ① 導入の工夫：学習問題の提示の仕方を工夫する。見通し（結果、解決方法、学習参加）をもたせる。何がわかって、何がわからないかを明確にする。
- ② 学習の振り返り：学習内容のとらえ直しや学び方のとらえ直し、学びの診断・評価等、学びを実感させ、自己の学びの過程を明確にしていく。
[自己との対話＝自分を感じながら学ぶ]

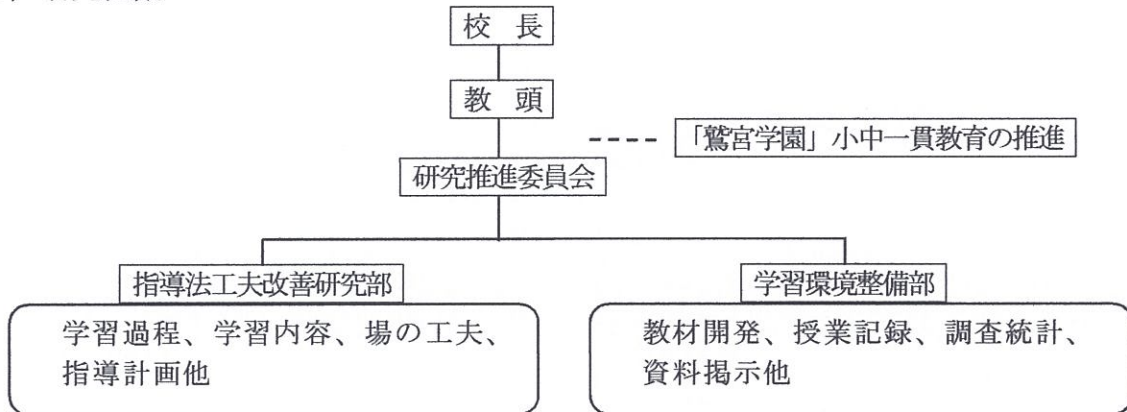
イ 仮説2

学習形態や学習方法を工夫し、自分の考えを表現し、他と比較しながら聞く話合い活動を続けていけば、自分の考えを広げ深める対話的な学びが身に付くであろう。

<手だて>

- ① ペア学習やグループ学習に積極的に取り組む。
- ② 思考ツールを活用し、思考の可視化を図る。
[他者と相互に関わる=納得の共有化]

(5) 研究組織



2 研究の実践

(1) 指導法工夫改善研究部の取組

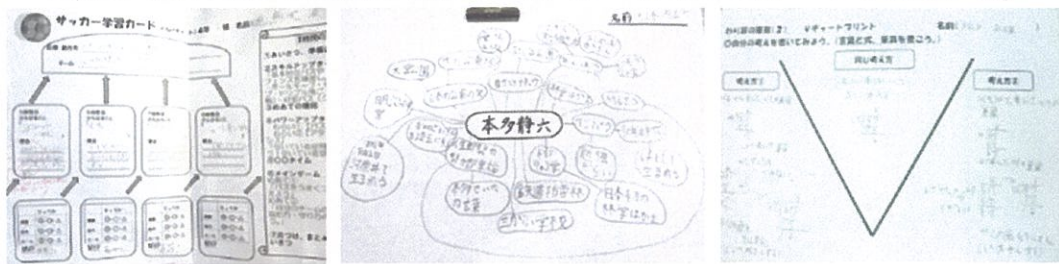
思考ツールを活用した授業や多様な学習形態による授業を積極的に実践している。蓄積した授業の実践記録をもとに、効果的な活用法を検証している。

ア 思考ツールの活用についての研究

各学年・学級で創意を生かし、全教科で思考ツールを活用した学習に取り組み、実践記録を残している。

① 学習カードでの活用 (個の考えや思いの可視化、整理)

自分の考えや思いを整理するため、思考ツールを学習カードで活用する。



【体育・くらげチャート】

【社会・イメージマップ】

【算数・Vチャート】

② 板書での活用 (板書で思考の可視化・整理)

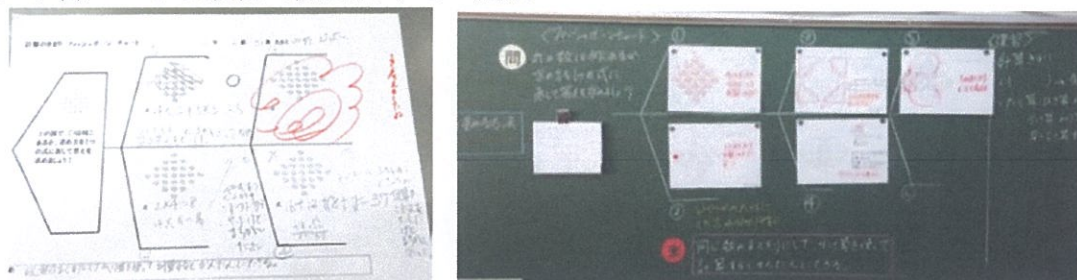


一人ひとりの考えや思いを視覚化し、思考を整理するため、思考ツールを板書で活用する。

【道徳の授業での活用場面】

2つの考えを比較し、新たな気づきを導き出すためにYチャートを活用した。

③ 学習カードと板書で関連付けての活用



【学習カードと板書（フィッシュボーン）】

イ 効果的な学習形態についての研究

考えを広げ深めるため、じっくり個で取り組む場を設定するとともに、ペアやグループで自分の考えを表現し友達の考えを聞く場や、学級全体で練り上げたり整理したりする場を設定している。



【個人】

【ペア・グループ】

【学級全体】

ウ 授業後の研究協議会及び情報交換

授業研究会では、教師の発問や支援と抽出児童の発言や活動を追う授業記録をとり、研究協議を行っている。また、日常的に継続して、各学級で取り組んだ授業実践をもとに、ブロック研修で情報交換を行っている。



【研究協議会の様子】

(2) 学習環境整備部の取組

毎日の授業に活用できる資料を作成するとともに各学級で取り組んだ授業の記録を蓄積している。

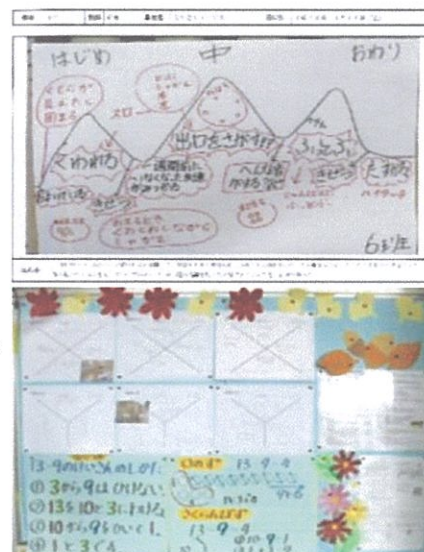
ア 授業実践記録

各学級で取り組んだ思考ツールを画像データに残し、授業実践記録を作成している。記録を各学級フォルダーに蓄積して掲示することで、全教職員で実践を共有している。また、ブロック研修の際にこの実践記録を用いて情報交換を行っている。

イ 学習の足あと

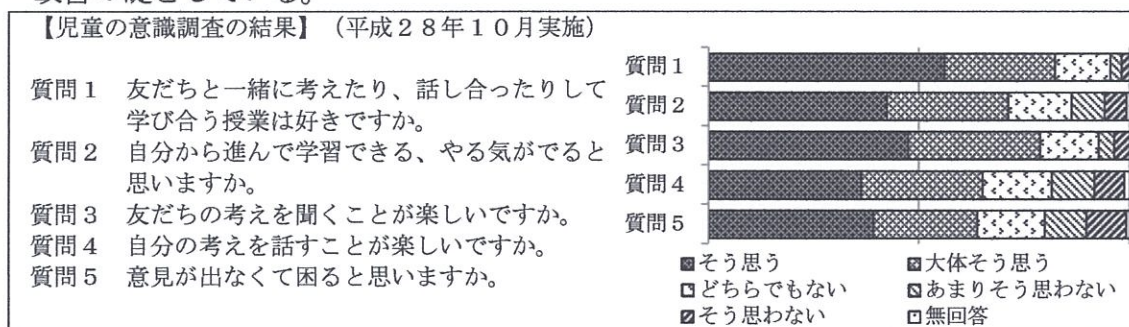
個の思考を引き出すため、既習事項等を掲示する学習コーナーとして設置している。あわせて、優れた学習カードを掲示し、思考ツールの活用の仕方の向上を図っている。

ウ 児童や教職員の意識及び学力の変容の調査



【1年生の学習コーナー】

「主体的に学習に取り組み、学び合い、高め合う児童」の姿をしっかりと見取るためには、児童や教職員の意識や学力について、定期的に調査・分析を行い、授業改善の礎としている。



(3) 授業研究会の実施



【授業研究会の様子】

日々の授業実践に加え、年間10回（全学級）の授業研究を行う。自分の課題をもち、学び合い学習を通して課題解決していく学習、思考ツールの効果的な活用の仕方等を通した授業改革を図り、研究主題に迫る。

(4) 基礎的・基本的な学力の定着

ア スキルタイム（業前、週2回）

週ごとに、定着チェックを行う。補習と家庭学習との連動し、確認を行う。

イ 基礎学力定着週間（年3回、毎学期後半）

ロングスキルタイム（毎日）と家庭学習強化週間を実施し、スキルアップを図る。

ウ 家庭学習の充実

「家庭学習の手引き」「学問のすすめ」を配布し、懇談会でのグループ協議で保護者の意識を高める。

3 研究の成果と課題（○成果 ▲課題）

- (1) ○学び合う学習をつくり上げるために、導入をはじめ学習過程を工夫したことで、児童が積極的に学習に参加するようになってきている。
- (2) ○思考ツールを積極的に授業に取り入れたことで、児童が自分の考えを表現できるようになってきている。
- (3) ○第1回の意識調査から、考え、話し合い、学び合う学習に好感をもち、やる気になっている児童が多いことが分かった。
- (4) ▲高学年になるにしたがって、自分の考えを話すことに抵抗を感じる児童が増えている。今後も、すべての児童が参加する学習のあり方について研究を進めていく。
- (5) ▲児童一人ひとりの学びや学力向上につながる授業になっているか検証し、さらに授業改革を進めていく。
- (6) ▲児童の学びが連続性をもち、児童がそれを生活の中で生かしていくことができるよう、家庭との連携を強化していく。